

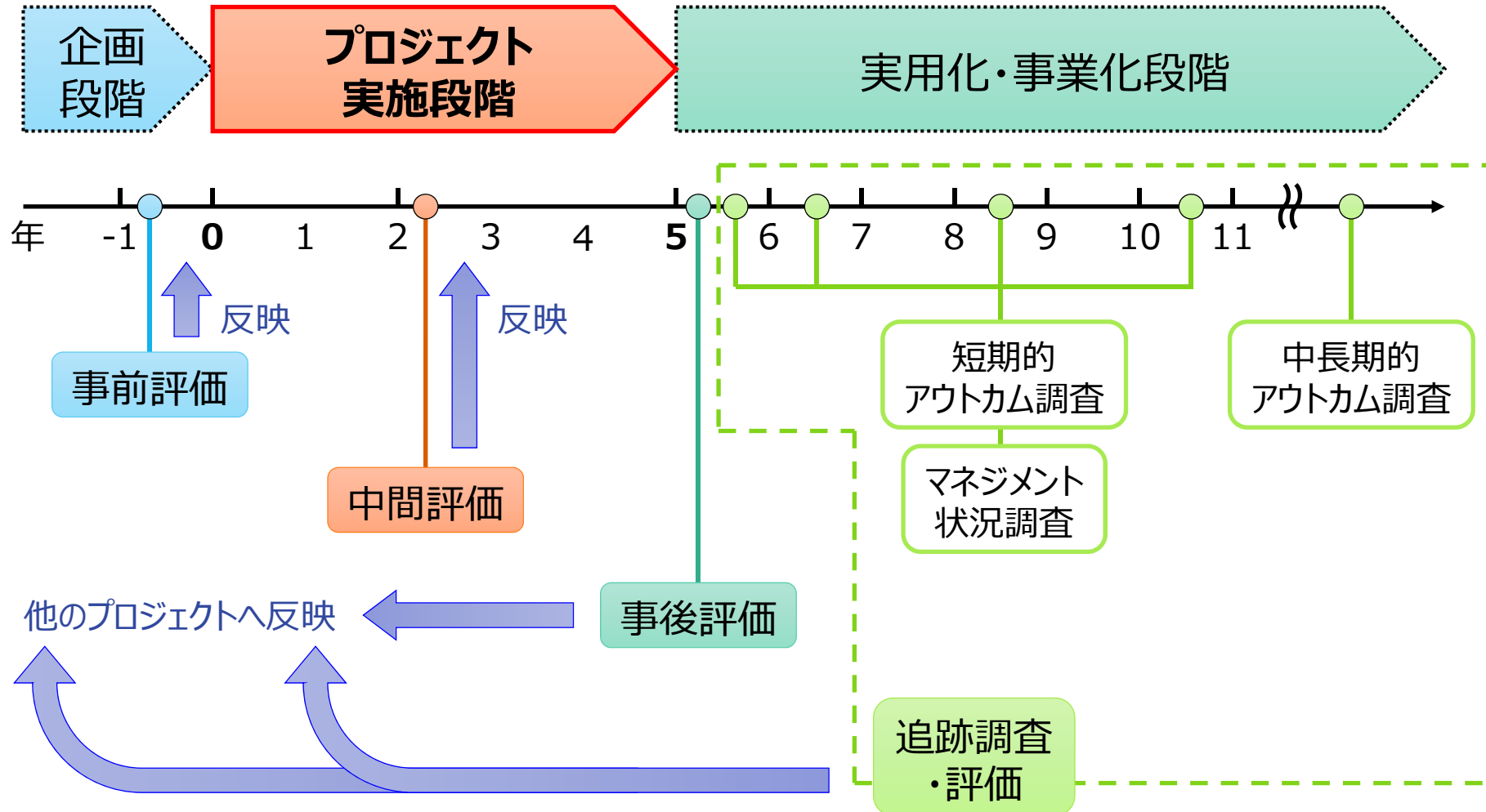
2020年7月

「NEDO追跡アンケート調査結果に基づく研究開発事業のマネジメントが及ぼす効果に関する調査」に係る公募説明資料

# NEDO追跡アンケート調査結果に基づく研究開発事業のマネジメントが及ぼす効果に関する調査 に関する調査 に係る公募内容説明資料

2020年7月 NEDO評価部

## NEDOの追跡調査は『アンケート調査』を中心に実施しています



## 調査は、プロジェクト（テーマ）終了後、1・2・4・6年目に実施

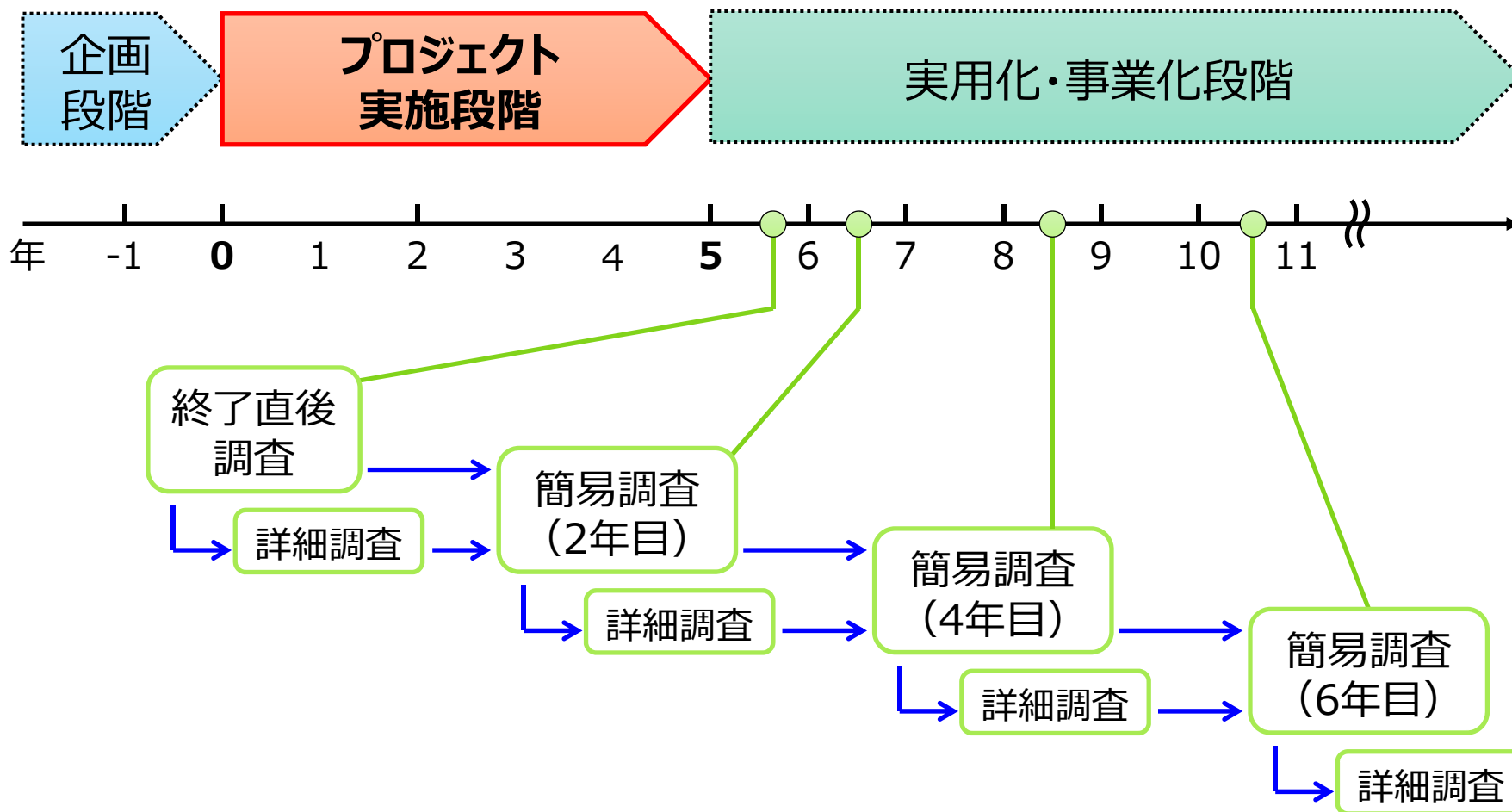
### 目的

- NEDOプロジェクトによる経済的・社会的効果の把握
- NEDOプロジェクト実施中のマネジメント状況の把握

### 対象

- NEDOから資金を得てプロジェクトに参画した機関
  - 民間企業
  - 技術研究組合等※1
  - 大学・国研等（NEDOの直接の委託先・共同研究先・助成先の場合）

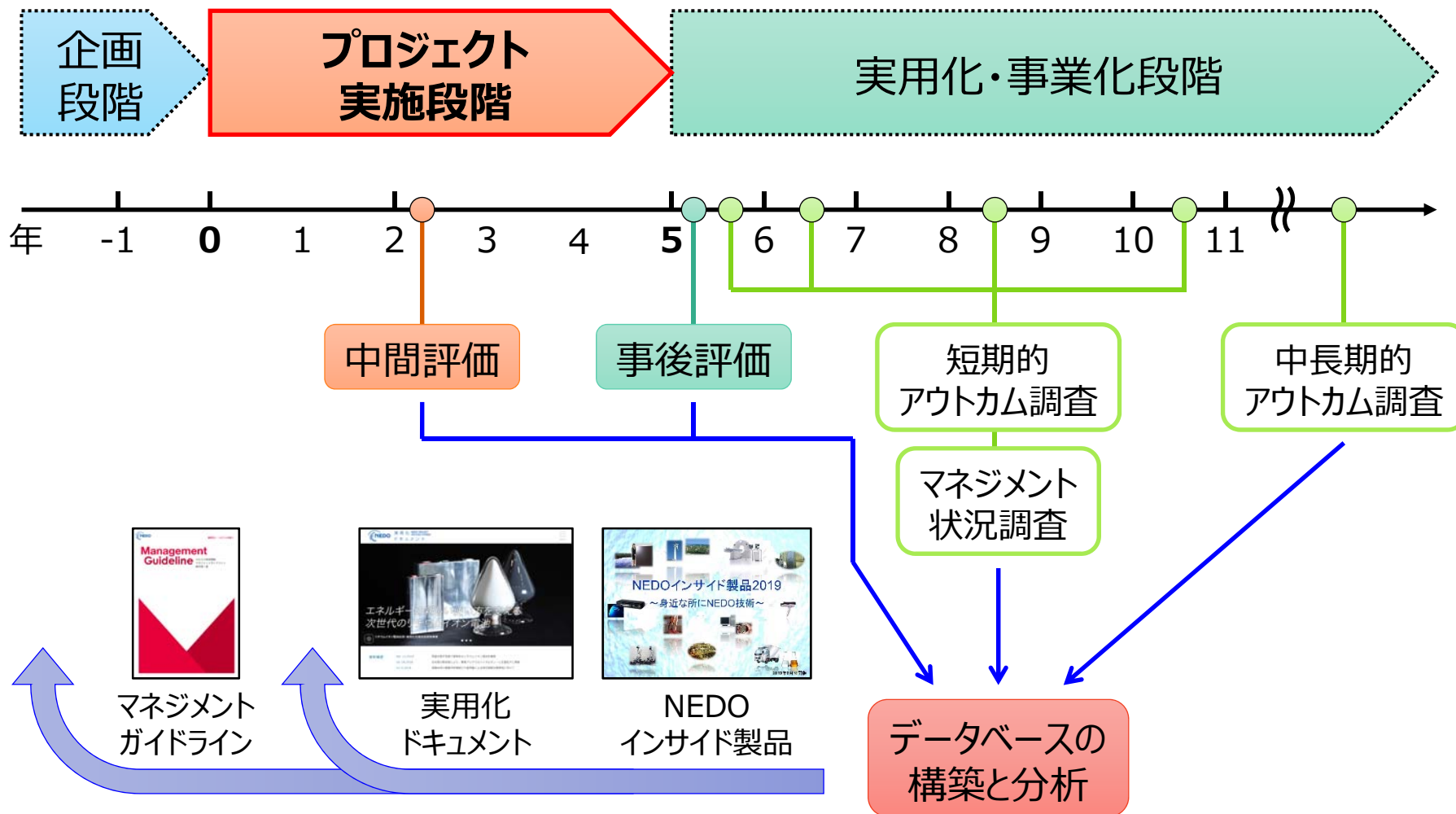
各機関の研究開発代表者へ、アンケート調査票（Web）を実施  
研究開発状況によって詳細調査にご協力頂く場合もございます



## 終了直後調査（2種） + 簡易調査（4種） + 詳細調査（4種） = 10種 を用いて、研究開発段階に応じた追跡アンケート調査を実施

	終了直後調査	簡易調査	簡易上市調査	簡易中止調査	詳細調査
目的	PJ実施状況・現状把握	現状の把握	現状の把握	現状の把握	原因の把握
対象	企業、大学等	企業、大学等	前回調査で製品化・上市と回答した企業	前回調査で中止・中断と回答した企業	製品化・上市した企業及び中止・中断した企業
時期	終了翌年度	2,4,6年後	2,4,6年後	2,4,6年後	終了翌年度、2,4,6年後
方法	アンケート	アンケート	アンケート	アンケート	アンケート、必要に応じてヒアリング
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発段階（研究、開発、製品化、上市、中止、中断の別）</li> <li>PJ参加時の状況</li> <li>PJ実施中の状況（企業側、PJ側）</li> <li>PJ実施の成果・効果（達成度、製品化想定、ポジショニング変化等）</li> <li>NEDOマネジメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発段階（研究、開発、製品化、上市、中止、中断の別）</li> <li>波及効果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発段階（研究、開発、製品化、上市、中止、中断の別）</li> <li>波及効果</li> <li>製品化・上市の状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発段階（研究、開発、製品化、上市、中止、中断の別）</li> <li>波及効果</li> <li>再開要因</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果の詳細な把握（製品化・上市事例、派生技術、標準化等）</li> <li>製品化・上市、中止・中断に至った経緯</li> <li>PJ参加時の状況</li> <li>PJ実施中の状況（企業側、PJ側）</li> <li>PJ実施の成果・効果（達成度、製品化想定、ポジショニング変化等）</li> <li>NEDOマネジメント</li> </ul>

## プロジェクトの成果の最大化のため、知見を蓄積・提供しています



委託調査名：

NEDO追跡アンケート調査結果に基づく研究開発事業のマネジメント  
が及ぼす効果に関する調査

予算：2千万円以内

調査内容：

- ①追跡アンケート調査結果の統合によるデータベースの  
作成及び分析
  
- ②NEDO事業への参加による他機関との連携効果

# ① 追跡アンケート調査結果の統合によるデータベースの作成及び分析・考察

2020年7月

「NEDO追跡アンケート調査結果に基づく研究開発事業のマネジメントが及ぼす効果に関する調査」に係る公募内容説明資料



主な内容：

・2010年度から2020年度までに実施した追跡アンケート調査結果（**テーマ公募型事業**）の統合によるデータベースの作成

（対象：単年度当たり調査票10種（計84種）、設問数約600件、機関数約2,000機関）

・作成した統合データの集計及び可視化

⇒作成した統合データを用いて、調査票毎に集計

⇒全ての選択式の設問に対して有効回答数を纏めた集計表を作成する。

⇒作成した集計表に基づき、設問毎にグラフ等で集計結果を可視化（150個程度）

・統合データに基づく分析と考察

【主な分析の観点】

観点1：NEDOプロジェクト参加の経緯、目的、期待度等に関する分析

観点2：研究開発実施体制がプロジェクトの成果及び効果に与える影響に関する分析

観点3：プロジェクト実施期間中の連携やシナジー効果に関する分析

観点4：研究開発の中止・中断に至った時期・要因に関する分析

観点5：NEDOプロジェクトがもたらす追加性（Additionality）に関する分析

⇒2017年度に実施したナショナルプロジェクトの分析結果との比較を実施



## ②NEDO事業への参加による 他機関との連携効果

2020年7月

「NEDO追跡アンケート調査結果に基づく研究開発事業の  
マネジメントが及ぼす効果に関する調査」に係る公募内容説明資料



目標：プロジェクト単位での成功、失敗要因の分析・考察

方法：2019年度、2020年度追跡アンケート調査結果の活用

具体的な調査方法：

- － ナショナルプロジェクト単位でのヒアリング・考察を実施
- － プロジェクトの選定方法は、次ページ参照
- ※ヒアリング方法は、対面を原則とするが、オンラインでの開催も検討

先行文献の活用：

- － 選定ナショナルプロジェクトの事後評価時資料
- － これまでに評価部で行ってきた委託調査結果等（「別添6 NEDO追跡調査に関連する  
先行調査・先行研究一覧」参照）
- － その他、研究開発事業の運営などに関する文献

## ②NEDO事業への参加による 他機関との連携効果

2020年7月

「NEDO追跡アンケート調査結果に基づく研究開発事業の  
マネジメントが及ぼす効果に関する調査」に係る公募内容説明資料



本調査では、2019、2020年度の追跡アンケート調査（ナショナルプロジェクト用）で設定している下記設問回答を活用した分析及び回答者へのヒアリングを実施する

他機関との連携効果として、追跡アンケート調査において、「他機関との連携による有用技術の獲得」「異分野、異業種、他機関とのシナジー効果」「他機関との人的・組織的ネットワークの形成」の達成度を伺っている。連携効果が確認された回答について、**その連携効果が生まれた機関との関係及び具体的な内容**を深掘りしたい。特に、連携効果が**当初の共同提案したメンバー以外と生まれる**ことが、NEDOプロジェクトでコンソーシアムを組む意義であると考えている。

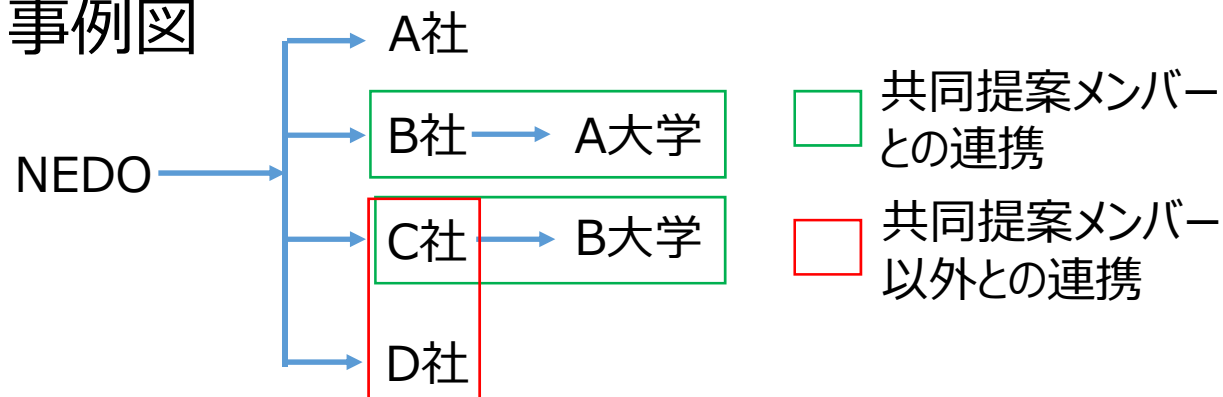
Q. 他機関との連携効果について伺います。当初、共同提案したメンバー以外のプロジェクト参加機関との連携効果（技術獲得、シナジー効果、ネットワーク形成<sub>など</sub>）は、ありましたでしょうか。

1 はい 2 いいえ

<具体的にはどのような効果があったか。>

記述欄 \_\_\_\_\_

### 事例図



- ・2012～2019年度追跡アンケート調査票  
本調査の公募ページに掲載
- ・2020年度追跡アンケート調査票  
本調査の公募ページに7月中旬に掲載

### 内容①：

2017年度調査「NEDO追跡アンケート結果に基づくプロジェクトの効果及び研究開発マネジメントに関する調査」

### 内容②：

2019年度調査「NEDO追跡アンケート調査結果に基づくプロジェクトの成果把握及び研究開発マネジメントがもたらす効果に関する調査」

ナショナルプロジェクト・テーマ公募型事業について：「第4期中長期計画」参照

<https://www.nedo.go.jp/content/100876729.pdf>